

平成 26 年度まちづくり座談会における質問・要望事項と回答

■十王地区：7月8日（木）午後7時30分～9時 参加者数57名

Q. 金山杉をふんだんに使ったまちづくりをしている金山町では、役場庁舎にも金山杉を利用していた。町でも、まだたくさんある資源（木材）を庁舎整備に使ってほしい。

A. 分署棟・庁舎棟については木造を考えている。町内の林業が低迷しているため町内産の木材をどのように利用できるかが課題である。今年度、森林再生協議会を立ち上げたので、その中で具体的な利用方法を検討していく。

Q. 150 台の駐車スペースを確保しているようだが、平日に中央公民館で催しがあった場合、職員の車もあるので 150 台では足りないのではないのか。中央公民館はなくなるのか。

A. 現在の駐車スペースを確保することとし 150 台程度と考えている。場合によっては足りないこともあるかもしれないが、工夫して対応したい。中央公民館については、防災センターの中に中央公民館に代わる場を複合的に整備したいと考えている。ある程度の広さの多目的なスペースを設けて通常時には町民の皆さんに利用していただく場としたい。

Q. 現在、敷地内のロータリーを、役場に用がない人も通行しているが、安全を考えれば通り抜けしないように迂回路を設置する等を考えたほうがいいのか。

A. 役場構内の通行については、現在の中央公民館の東側からの入口から庁舎の東に通り抜けるような配置を考えている。

Q. 庁舎等整備の基本方針に「環境にやさしいエコ施設」とある。施設計画の中にある「バイオマスボイラーの設備」のほかに環境にやさしいことを取り入れる予定はあるか。

A. 現在の基本構想の中では、概算で 30kw 程度の太陽光発電を考えている。

Q. 庁舎等整備の実質負担額が 19 億 7 千万円となっているが、起債についてはその後に返済となるので、その負担は予算にどのように関わってくるのか。

A. 見込んである実質負担額のうち、起債の 15 億 5 千万円を償還することになる。できるだけ有利な財源を充ててシミュレーションした結果、今後、最大で 2 億円弱の償還が増える年度もあるが、このことを含めての財政計画の中で庁舎等整備を実施できると考えている。

Q. 立派な図書館をつくるとコストがかかって中身が充実しない。ぜひ中身を充実させてほしい。

A. 図書館についても、これからいろんな方からご意見をいただかなければならない。ただいまの意見も今後の検討に参考にさせていただく。

Q. 町の10年後、30年後を心配している。思いきって抜本的な施策をやっていく必要があるのではないか。来年度からの第5次総合計画の後期5か年計画の中で、町民が元気になるような構想の一端があればお伺いしたい。

A. 今後、高齢化社会は避けて通れないが、少子化については、結婚が増えれば避けられる可能性はあり、そうなるようにする取り組みが大きな課題。付随して雇用の場所をどう確保するか。

Q. 昨年7月の豪雨の際に避難勧告が出たが、避難場所がこの狭い地区公民館だった。公民館の老朽化で不便をきたしている。以前から要望しているが、十王地区のコミュニティーセンターの建設を早急をお願いしたい。

A. 来年度からのコミュニティーセンター化に向けて地区計画を策定してもらっているが、一緒に検討していく必要があるので、今後、コミュニティーセンター化と並行して進めていきたい。

A. 箱ものを建設することも大事だが、それ以前に、地域として何をやりたいのか、どのような地域をつくりたいのかを明確にする必要がある。目標を設定し、地域の将来像を描くなかで施設の必要性が出てくるのではないかと。

Q. 草木沢川の源流、近くに住宅があり、水があふれると路肩が崩れて危険なので、早急に改修をお願いしたい。

A. 草木沢川の上流部の改修について、今年度、河川維持工事の中で、八卦地内の町道荒砥細野線の下流側の区間の工事を計画している。

Q. 中十王・八卦、ここ2年くらいで救急車が4回きたが、袋小路なので後退しないといけない。救急車だけでなく、災害時には両側からポンプ車が入れるように、道路を拡幅するか追分塔ノ前線に接続させるか、なんとかできないものか。

A. 以前から要望をいただいている箇所だが、現在、町の振興実施計画にはまだあげられていない。今後の計画の中にあげて検討させていただく。

Q. 長年の悲願であった上野地区の十王新屋敷線が開通した。まだ 120～130m くらい残っているのですが、引き続きお願いしたい。

A. 昨年度 150m を整備した。路線としてはまだ未改良の部分はあるが、さきほどの通り、振興実施計画の中に盛り込んで検討していきたい。十王地内の路線では追分味噌田線が計画の中にあげられており、地域バランスも考慮して進めていく。

A. 道路整備について、十王地内では上野地区の六差路の解消を最優先にしなければならないと考えているので、ご理解いただきたい。

Q. 東部農免道路の下を排水のパイプが横断しているが、大雨でなく通常の降雨でも水をのみ込めないで、パイプを太くする等、排水できるように対応していただきたい。

A. 現場を確認して、維持工事に対応可能かを検討する。

Q. 荒砥地区のポンプが長井に応援に行くと十王の新しいポンプ車が荒砥に行くので不在になる。上野の坂道を可搬式では心細いので、上野地区に小型ポンプ車を常備できないか。

A. 上野地区に軽積載車をとの要望。町の消防団員 670 人いるが、今後の団員数の推移、それに伴う班編成等を含めて消防力をどう確保するかを検討したうえで整備していきたい。

A. 昨年 7 月の豪雨災害時に軽トラックの借り上げに苦労したため、軽トラックの整備を検討している。通常時には軽トラックに可搬ポンプ車を載せ、災害時には降ろして土のうを積んで災害現場に運べるようにできないか検討している。全体的な消防力を低下させないように、より安心安全なまちづくりに努めていく。

Q. 中学校が統合してからの部活動、新しいユニフォームが必要になるが、町から、上下セットではなく上だけしかもらえないときいた。私たちが好き好んで統合するわけではないのに上だけ預けられて、あとは保護者会でお金を出して対応してくださいということなのか。保護者会長としてどのように説明したらいいのか。できれば、上下セットで支給していただきたい。

A. ユニフォームについて、どのように対応したらよいか、これまでいろいろな意見をいただいていた。部として整備するもの、個人で持ってもらうものを区分けし、統一したもので必要なものは学校とも協議しながら、町で購入させていただく。頭からつま先まで個人的なものもすべて町で、というのは難しいので、一定基準のもとに購入するということでご理解いただきながら、町として対応しなければならないところは対応していきたい。

A. 統合したほうが、より、子どもたちの教育効果が上がるとの考えで町の政策として統合するので、前向きに検討していく。

Q. 町長から話があった、六差路について、地元としてはなるべく早くお願いしたいが、地元としての考えがまとまっていないので、町の協力を得てある程度の線引きをしてもらい、納得のうえで、早く着工していただきたい。

A. 一度、線を引いて用地交渉をして失敗した経過がある。時代背景が当時とはちがうが、同じ失敗はできない。地域で、やっぱり必要だから協力してほしいという雰囲気をつくってもらうことが大切。現段階で、町で線を引くのはできない。地域の皆さんで話あっていただいて、担当と一緒に課題を話し合いさせていただきたい。

Q. 昨年7月の豪雨で、町道水上線の舗装がはがれたが、今年は整備してもらえるのか。

A. 今年度で復旧を予定している。なるべく早く工事を発注していきたい。

Q. コミュニティーセンターの組織図の中で、環境の問題を話しあうのはどの部会になるのか。

A. この組織図は、あくまでも例であり、どのような部会をつくって何をしていくかは地域の経営主体で計画して組織体制をつくっていただきたい。組織しているところでは、一般的には、環境衛生の部門に入っているようだ。

Q. 以前は、白鷹町美しい郷づくり推進会議の中で「美しい郷づくりへ GO!」というニュースを発行していたが、発行されなくなって残念。環境のことで地域で取り組んでいることがよくわかるのでたいへんよかった。財政的な問題で全戸配布ができないのであれば、回覧板でもいいので、何らかの形で知らせてほしい。

A. 美しい郷づくり推進会議には、「ごみ資源部会」「省エネルギー・新エネルギー部会」「水環境部会」の3部会で事業をやっている。以前は部会ごとに会報を発行していたが、現在は活動報告を年2回、町報に掲載している。部会の皆さんも部会の活動を町民の皆さんに知ってほしいと思っているので、今後、機会をとらえて検討していきたい。

Q. 町の25年度のごみの排出量、1億2870万円かかった。町のごみの処理量の推移では、一時期は減っていたがまた増えてきた。白鷹町ではどのような取り組みをして減らしていくのか。他の市町は減っているのに、他の市町の取り組みもおききたい。

A. 高島町は生ごみのコンポストの購入に補助をしている等、地域ごとに減量に取り組んで

いる。白鷹町では衛生組合でごみの減量化に向けてコンポストの補助を行っている。

Q. 防災施設も兼ねてコミュニティセンターを整備するのであれば広く大きい調理室を設けてほしい。

A. 十王地区としてどのような事業をしていくかということとあわせて施設の機能も検討していくことになる。

Q. 中学校が統合になれば、当然、生徒数が増える。部活動をするにはグラウンドが狭いのでなんとかしてほしい。

A. できるだけ学校施設を充実させたい。中学校で利用する武道館の整備を計画している。テニスコートは現在の2面から4面に増やす予定。グラウンドについては周囲が住宅地のため拡大するのはむずかしいので、部活動などにおいては東陽の里や町民野球場・ソフトボール場を活用していくように検討する。

Q. 8町内のY字路から出来町のほうに行く通学路で草木沢川の橋を通るが、道路の高低差がある箇所にガードレールがなくて危険箇所だと3年前から確認している。役場に文書でもお願いしたが、いつ頃に設置できるかをお聞きしたい。

A. お話の箇所は区長から要望書をいただいた。早急に現場を確認してガードレールを設置するように対応する。町内の通学路の危険箇所について、教育委員会、警察、道路管理担当の建設水道課の立ち会いで年に2回の点検をしているが、いまの箇所はこれまで点検した経過がなく、要望書で初めて知った。もし、ほかにも危険箇所があったら学校に連絡いただいて点検時に確認していきたい。

Q. 国道287号通行止めによる迂回路で宝前町を通過するが、横断歩道の白線が消えかかってきている。白線を引き直す予定はあるのか。あるとすればいつ頃になるのか。

A. 以前から要望いただいており、長井警察署から県の公安委員会に申請している。県で順次対応していくと思うので、連絡がきたら区長を通じてお知らせしたい。

Q. 冒頭の町長のあいさつの中で、これまでの減反政策がなくなるという話があったが、なくなるという意味ではないと思う。町長は水田農業再生協議会の会長でもあるので、意味合いを間違っているとらえられると困る。勘違いされないようにお話しいただきたい。

A. 減反政策の見直しについては、生産調整という考え方は今後も続いていくのではないかとと思われるが、これまでのように減反をしないとペナルティが課せられるという国が強制

力をもつてのやり方は5年後を目途に廃止する方針ととらえている。町としては、水田農業再生協議会の中で、これからの水田の在り方、生産調整の方法、米に代わる作物等を検討しながら進めていく。

A. 水田をフル活用しようとする中で畑作に生かす、畑作に生かすには水田のままでは問題があるという意味での話だったが、言葉足らずだった。

Q. 町では結婚相談員を委嘱して結婚対策をしているが結果は年に数組と聞いている。本当に数を増やすならもっと手を打たなければならないのではないか。近隣市町の中で結び付けようとするだけでなく、テレビを活用し、町をあげて、結婚したい人に全国から来てもらい、なおかつ、町をPRするというような考えはあるかお伺いしたい。

A. 舟形町で「ナイナイのお見合い大作戦」を実施した。1000万円を使い、4組ほどのカップルが成立したが、その後の進展はないときいている。全国放送なので、町のPRとしては有効であるが、それを生かせる素地があるかないかである。経費は2000万円かかるそうで、自治体が1000万円を負担。舟形町の町長とも話をしたが、財政負担が大変だったとの話だった。テレビ番組の企画なので、このようなことはイベントであると理解いただきたい。結婚相談員は他市町と連携をとりながら地道に活動していることを評価し、町としては、結婚・出産・育児への環境づくり、支援を考えていく。

Q. 現在、東中学校のテニスコートは町の都市公園を利用している。部活動がない日には一般の子どもたちが利用してサッカーなどをしているので、次の日の部活前にはコートの整備をしなければならない。今後、統合中学校になりテニスコートが新しく整備されたら、中学校の施設となるのか、これまで通り都市公園の一部となるのか。

A. 東中学校で使っているテニスコートは、都市公園の中のテニスコートという位置づけ。基本的にはこれまでと同じで都市公園のテニスコートとして整備するが、一般の方にもあくまでもテニスコートとして利用してもらうようにルールを決めて対応していきたいので、ご理解いただきたい。